

電子情報通信学会 2025年ソサイエティ大会

企画：光輝会特別専門委員会 AI-2

これからのリカレント教育とサイバーセキュリティ人材育成

人生100年時代を迎え、大学卒業後も継続的な学び直しが求められる中、サイバーセキュリティ分野では高度な専門性を備えた人材育成が急務となっています。本セッションでは、大学・研究機関・企業によるリススキリング／リカレント教育の取り組みや、社会人博士課程進学の制度設計と意義を紹介し、社会人が再び学びの場に戻るために必要な支援や制度について多角的に議論します。

日時：2025年9月9日9時～12時15分

場所：岡山大学工学部1号館2階第5講義室

ACCESS : <https://www.engr.okayama-u.ac.jp/access/>



神園 雅紀 デロイト トーマツ サイバー合同会社 サイバーセキュリティ先端研究所 所長
予測が難しい時勢に期待されるサイバーセキュリティ人材の育成に向けたこれからのリカレント教育戦略

昨今、新しい技術の登場による新たな脅威の具現化、国際情勢を踏まえた安全保障への取り組み、国内外の新たなハードロー／ソフトローやレギュレーション施行など、予測が難しい時勢となっている。サイバーセキュリティ人材はもれなくこの不確実な時勢への対応を期待され、技術面のみならず法的面や国際レギュレーション等の理解など様々な知識を習得し、昇華・実行していくことが求められる。これらを踏まえ、アップスキリングとリススキリングを含め、これからのリカレント教育のあり方と展望について議論する。



園田道夫 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所
ナショナルサイバートレーニングセンターセンター長

サイバーセキュリティ人材育成の現況

業界に以前より日が当たるようになった現在でも、サイバーセキュリティに関わる人材の不足は解消されないまま久しい。本セッションではその最前線の状況を共有しつつ、リカレントという切り口に寄っての今後の可能性について検討していく。また、いわゆる生成AIが急速に利用拡大する中今後の育成はどうあるべきなのかも検討していく。



竹井 悠人 株式会社メルカリ・メルコイン

民間における博士活躍の場の拡大を目指して

博士取得者は、研究開発の全プロセスを自走できる人材であるが、分野によっては民間での登用が浸透していない。また、民間の技術者にとって業務に携わりながら博士を取得することは決して容易でなく、所属組織の理解や後押しは極めて重要である。本講演では、発表者の社会人博士取得に至った実体験をもとに、メルカリにおける博士取得支援制度について紹介し、また一般企業における博士人材の活用への模索を紹介する。



宮地充子 大阪大学大学院工学研究科

大学が支える新たなキャリアパス：リカレント教育と社会人博士課程

人生100年時代において、学生時代の知識だけで一生を豊かに過ごすのは困難になっている。そこで注目されているのが、大学で知識や技術を補強する「リカレント教育」や「リススキリング」である。さらに、博士号を取得して専門職として活躍する「社会人博士制度」は、個人の飛躍だけでなく、社会に高度専門人材を供給する重要な制度でもある。本講演では、大阪大学の「科目等履修生高度プログラム」や「社会人博士課程」を紹介しつつ、博士人材が民間で再び活躍する道と大学の役割について考察する。



小出 洋 九州大学情報基盤研究開発センター・教授

ビジネスを支える情報システムを守るための人材育成

サイバー攻撃の高度化が進む中、ビジネスを支える情報システムを守るには、技術と業務の両面を理解した人材が不可欠です。本講演では、脅威モデリングや事業継続演習などを通じた実践的な育成のあり方と、社会人の学びの場の重要性について紹介します。

連絡先 : ssa-koukikai-committee@mail.ieice.org